

# 車いすで散策を

【2016.10.6.(木)北國新聞,石川北面】

## 車いすで散策を

七尾市青山町の障害者支援施設「青山彩光苑」に入所し、電動車いすで生活している桶屋善一さん(62)が七尾市の駅前や商店街、観光地のバリアフリー状況調査した冊子を作り、配布している。車いすでも利用しやすい施設や道路を写真やコメント付きで紹介しており、桶屋さんは「体が不自由な人にも、まちなか散策を楽しんでほしい」と話している。

七尾の桶屋さん、冊子作成

### 市内のバリアフリー紹介



作り上げた冊子を眺める桶屋さん  
＝七尾市青山町の青山彩光苑

冊子はA4判、83面で30「害のある人や観光地」市内の図書館に配布する。御坂川大通りを中心に、車いす利用者の入りやすい店やトイレなどを紹介している。電動車いすにカメラを取り付けて撮影した写真をパソコンに取り込み、文章を打ち込んで仕上げた。障

害のある人や観光地、市内の図書館に配布する。御坂川大通りを中心に、車いす利用者の入りやすい店やトイレなどを紹介している。電動車いすにカメラを取り付けて撮影した写真をパソコンに取り込み、文章を打ち込んで仕上げた。障

2016年8月1～12日、七尾市富岡町の恵寿総合病院で開催された「車いす目線から巡る七尾の旅」の展示会の取材がきっかけで、この記事の取材が行われました。数ヶ月に渡り、新聞記者に取材を受け、メールのやりとりを行ってこの記事が完成しました。

ら、職業訓練場などの入所を断られ、夢を諦めることもあったという。生きがいを見つけたが、いきなり退職したが、青山彩光苑の職員との出会いをきっかけに、32年前から障害のある人らの交流を紹介する季刊誌や冊子を作るようになった。

現在は北陸新幹線の金沢駅や富山駅などの写真を撮り、次の冊子製作に取り掛かっている。今後は金沢駅周辺の店や七尾市内循環バス「まりん号」を調べ、冊子を作る予定だという。桶屋さんは「車いす利用者のために始めた冊子作りは今では生きがいだ。もっと障害がある人に理解を深めてもらえるよう頑張っていきたい」と話した。